

1. 会長あいさつ

(白川中学校 徳永校長先生)

それぞれの学校が定期テストのシーズンに入り、これから1学期の成績をつけていくところでしょう。今行ったパズルやクイズのような問題(上記)は思考力を鍛えるのには非常に良いと思います。プログラミング教育なども話題になっていますが、数学で論理的な考え方を養うためにも、授業が早く終わった時などにトピック的に扱うことで、意欲の増す生徒が現れたりするのではないのでしょうか。

今日は来年度の県大会に向けての研究部の提案や今年度の活動の説明があります。組織づくりや研究が始まる中で、特に研究のテーマについて小さい疑問でもよいので各部会でしっかり出し合ってほしいと思います。それぞれの部会で話し合い、活発に研究が進んでいけば、それがひいては私たちの普段の授業のクオリティーを上げることにもつながります。これから県大会に向けて盛り上がっていかねばと思いますのでよろしくお願いします。

2. 今月の取り組み(1学期期末テスト問題作成についての意見交換)

各学年で4～5人のグループに分かれ、期末テスト問題についての意見交換を行いました。期末テストを既に終えた学校や翌週に実施される学校と様々でしたが、今回は『数学的な見方や考え方』をテストで評価する際に、他の観点に比べてどうしても正答率も低くなる傾向にあるため、どのような工夫をしているのか」ということを中心に話し合いました。



- 見方・考え方の観点がCになることが多いので、穴埋め形式に出題することで子どもたちを誘導しながら答えさせたり、記述式の問題で部分点を与えたりして加点していく。
- 1年生の1学期末テストはこの時期のテストで一番悩むところ。教科書の「考えてみよう」という部分をベースにしてつくと授業でも一度やったところなので考えやすくなるのではないかな。
- 2年生では「等式の変形」を学習するが、その時に変形の過程を説明させる(「等式の性質など、どの性質を使って変形したのか」「〇〇の用語を入れて説明しなさい」など)と子どもたちの思考を問えるのではないだろうか。

3. 県大会に向けた取り組み

(1) 組織づくり

来年度の第74回熊本県中学校数学教育研究大会では、熊本市・熊大附属中が発表・運営を行います。先日の定例会では、授業者及び責任者の発表と挨拶がありました。また、授業づくりにおける各ブロックの協力校も決まりました。これから、県大会に向けて6つの部会に分かれて授業づくりが始まります。次回の定例会では、『①授業の題材の提案・検討, ②夏休み・今後の計画立案』を行う予定です。素晴らしい県大会となるように、各学校からのご協力をお願いします。

ブロック	1 年 A	1 年 B	2 年 A	2 年 B	3 年 A	3 年 B
授業者	後藤 碧 (白川中)	末藤 美妃 (附属中)	紅林 周佑 (西山中)	松尾 卓郎 (北部中)	濱 祐一郎 (楠中)	工藤 龍之介 (東野中)
責任者	井深 友美 (長嶺中)	大木 辰男 (清水中)	松本 信一 (井芹中)	古閑 智明 (西原中)	牧田 朋子 (花陵中)	内村 尚敬 (東町中)

※敬称略

1 年 A ブロック



2 年 A ブロック



3 年 A ブロック



1 年 B ブロック



2 年 B ブロック



3 年 B ブロック



(2) 研究主題について

来年度の県大会に向けて、研究部長の坂元先生（北部中）より、研究主題や研究の視点等を提案していただきました。

【研究主題】

**数学的な見方・考え方を働かせ、
深い学びに向かう生徒の育成**



【研究の視点】

- (1) 身に付けている力の明確化と授業後に身に付けさせておきたい力の明確化
- (2) 単元など内容や時間のまとまりを見通した授業構成
- (3) 生徒が主体的・対話的になる導入や場の設定の工夫

多様な考えを出し合って、幅広い情報を基に、テーマに沿ったより良い授業を目指してみなさんと県大会までやっていけたらと思いますのでご協力をお願いします。

4. まとめ

(1) (青少年教育課 若松先生より)

子どもたちの健全育成、非行防止のために街頭指導や関係諸機関との連携を強化しながら子ども達のために活動しています。なかなか数学に触れることが少なくなった状況の中で、今日は本当に定例会に行きたいなと思って参加しました。

坂元先生の話聞く中で、レベル4がどこなのかと考えたときに、補助線を引くよさを生徒が感じられるようにしていくことだと思いました。レベル5は話を聞いている中で周りの生徒が「他のやり方がないのか」と、教師が言わなくてもやってみようという取り組みでいくような状況だろうと思います。短時間で考えられるものではありませんが、このようにレベル4や5とはいったいどんな状況だろうかと考えることが今日はとても充実した時間でした。



(2) (熊本大学教育学部附属中学校副校長 高木先生より)

昔、熊大に鈴木先生がおられましたが、ある研修の中で、学習評価で困ったときにはもう一回目的に立ち返りなさい。

『何のために評価しているのか。』『数学的な見方や考え方の目的や目標は何なのか。それに合っているかどうか。』で考えるのが基本です。」と言われたのがすごく印象に残っています。これらのことについて考えることが大切だと思っています。

来年度の県大会の期日がいい日に決まったと思います。「令(0)和2年11月20日」ということで、どちらから読んでも「021120」と、素晴らしい響きだと感動したところです。



(3) (熊本大学准教授 吉村先生より)

今日もおもしろいと思いながら拝見させていただきました。まず、テストを公開したときに「この先生がどのようなことを大切にしているのか」ということが読み取れたかどうか、そこがすごく大事です。それから『何を自分が大切にしているのか』ということテストに反映できたかということもそうです。今日の話では、2年生の「等式の変形」のところで、授業で行っているところをテストに出して評価する、授業で大切にしているところをテストにするという1つのモデルを紹介してもらえたと思います。

もう一つは、これからの県大会に向けて、仮説があって視点に沿いながら授業をつくっていくのはとても大変だと思います。ですが、授業の基本はやはり普段の授業であり、それをどれだけブラッシュアップできるかということも大事だと思います。その延長にこの研究会があるのではないのでしょうか。みんなが知っている題材をどう調理すると、「授業おもしろい」「子どもたちがのってきたな」と、そういう視点で授業ができるとまた普段の授業にも生きてくるものだと思います。今日は非常にわくわくしながら話を聞かせていただきました。



5. 副会長あいさつ

(三和中学校 出崎校長先生)

なぜ今日もこの定例会に来たかという、昔の記憶が蘇ってきたからです。私が事務局をしていた時にも集まってくれる人達がいました。恐らく今日も、テスト問題や学級通信をつくったり、明日の授業の準備があったりと、いろんなやりたいことや、やらなければならないことをさておいて、集まってくれた人がたくさんいることでしょう。越地先生をはじめとするこの会を企画・準備した人たちはそれだけで嬉しいのです。だから今日先生方にこうして来ていただいたことは、自身の学びや、互いの情報交換といった意味もあるけれど、多くの人たちをととても幸せな気持ちにしたということもぜひ忘れず、願わくば次の会そしてまた次の会へと足を運んでいただいて、みんなで研修ができればいいなと思っています。



6. 今月の問題の答え

答え：(英)=2, (知)=0, (恵)=3 となり、「英知知恵」=「2003」

7. お知らせ

次回の定例会は

7月11日(木)19:00~21:00 錦ヶ丘中学校 です。

お忙しいと思いますが、多数のご参加をお願いします。

※本年度の「市数研だより」は西（藤園中）、森（出水南中）が担当をします。

定例会の様子を中心に、毎月1回のペースで発行していきたいと考えております。

ご質問やご感想がありましたら、下記のアドレスまでお願いします。

(授業についてのアドバイス等もお願いします。)

nishi.yuuki@kumamoto-kmm.ed.jp または mori.kenji@kumamoto-kmm.ed.jp

- ・定例会へ多数の先生方のご参加をお願いします！！
- ・各学校から1名以上の参加をぜひともお願いします！！
- ・特に若手の先生方、遠慮せずに参加して、市数研の底上げを図っていきましょう。
主任の先生方、呼びかけをよろしくお願いします。

文責 出水南中学校 森 建之